

II.4. 大阪大学言語文化学会

○言語文化学会活動

2024（令和6）年6月27日（木）大阪大学言語文化学会第64回大会

<研究発表>

LEE Joongchan 「Imprisoned in Delusions of Grandeur: The Raison d'être of Mrs. Yamada in John Okada's *No-No Boy*」

謝鉉騏 「『霹靂』シリーズにおける特権的な登場人物—その形成、及び中原中心意識との関係をめぐって—」

LI HENGCONG 「LGBT 理解増進法をめぐる保守的な政治ディスコース：寛容、嫌悪、およびナショナリズム」

陳凱歆 「日本の多文化共生施策が描く「共生」に関する批判的談話研究—デュースブルク学派の詳細分析による一考察—」

孫聰雨 「日本語の使役受身文の意味論的研究—共起制限と使用条件をめぐって—」

宮前純子 「日本語数量詞「たくさん」についての一考察」

川端映美 「フランスにおける早期離学対策 MLDS の取り組み—リヨン市郊外の事例をもとに—」

蔣 晴 「フランス語の継続調と疑問調の弁別特徴について —日本人学習者が発話する肯否疑問文は継続調と認識されることについて—」

張 斌 「多文化共生社会における「やさしい日本語」に関する大学生の意識研究」

龍思好 「中国語を母語とする日本語学習者が使用するフィラーについて—海外教室環境と日本国内教室環境の比較を中心に—」

<特別公開講演>

小林哲也先生（京都大学）

「W・ベンヤミンにおける「集団的主体」の思考—「集団の身体」を走る神経刺激と「ほぐれた大衆」の政治化」

2024（令和6）年10月24日（木）大阪大学言語文化学会第65回大会

<研究発表>

洪心怡 「DIY 活動を用いた聴解学習の効果とその可能性—対面授業とオンライン授業の比

較一」

CHEN ZUOHAO「中国人日本語学習者のフィラーに関する縦横断的分析」

<招聘研究発表>

木場安莉沙先生（名古屋文理大学）

「災害ナラティブとしての「コロナ禍」の語りが果たす役割と意味—マイノリティの経験を中心に—」

大神雄一郎先生（大阪公立大学）

「状態・性質を表す「XはYをしている」表現の統合的意味について」

<総会>

1. 2024 年度役員・委員

【役員】会長：山本佳樹、副会長：里内克巳

監事：秦かおり、ガデミ アミン

【教員委員】委員長：渡辺貴規子、副委員長：中畠浩貴

会計委員：黄晨雯

教員委員（企画・編集委員を兼務）：ガデミ アミン、井坂ゆかり、
バルカ コランタン ジャン、八木堅二（前期）、ヤン ムイ（後期）、
黄晨雯（事務局担当）

【院生委員】アトキンス アレクサンドラ、閔絵如、笠井源、
立野寛太、丹波雄治朗

2. 2023 年度活動報告

3. 2023 年度会計報告

4. 2024 年度予算案

5. 2024 年度活動

6. 会員数

7. その他

2025（令和 7）年 3 月 31 日『言語文化学』第 34 巻発行

<査読者>

池田晋（外部委員）、今尾康裕、植田晃次、榎本剛士、越智正男、川口裕司（外部委員）、
佐藤彰、杉本侑嗣、鈴木啓峻、田中智行、難波康治、西田理恵子、西村謙一、
平山晃司、三木夏華（外部委員）、山下仁、山本武史、リー シーチェン ナンシー

○『言語文化学』第34巻（2025）目次

論 文

- ・ フランス語の継続のイントネーションと疑問のイントネーションの弁別特徴について
—日本人学習者の疑問のイントネーションが継続のイントネーションと認識されることを巡って—
..... 蔣 晴
- ・ LGBT 理解増進法をめぐる保守的な政治ディスコース：寛容、嫌悪、ナショナリズム
..... 李 恒聡
- ・ 大学教育における「やさしい日本語」に関する授業の導入について
—「やさしい日本語」に関する大学生の意識調査に着目して—
..... 張 斌
- ・ The Atelic *DE* and The Clefts of Mandarin
..... Xiaoshi QIU